



ロータリー：変化をもたらす

RI 会長

イアン H.S. ライズリー

新潟南ロータリークラブ

- 例会場 / 新潟市中央区川端町 6 丁目 53 ホテルオークラ新潟 TEL 025-224-6111
- 事務所 / 新潟市中央区西堀前通 6-905 第二西堀ビル 5 F
TEL 025-222-5050 FAX 025-222-5051 e-mail niigataminamirc@wine.ocn.ne.jp
- 例会日 / 水曜日 12 時 30 分
- 会長 / 富山 修一 幹事 / 田村 淑文 会報・雑誌委員長 / 西脇 郁夫

WEEKLY REPORT

No.2848 2018.03.28 wed

ロータリーソング 「それでこそロータリー」 「ROTARY」

1) 富山 修一 会長挨拶



3月22日に和香・小夏ちゃんの留め袖を祝う会を開催。27名の参加で楽しく過ごさせてもらいました。

今日は1903年に札幌麦酒(株)が墨田川の吾妻橋で日本初のビールガーデンを開設した日です。オランダ語由来のビール (Bier) が由来、その後英語由来のビア (Beer) ガーデンとなりました。そこでビール会社の歴史です。キリンビールは明治2年 (1869) 横浜でアメリカ人が開設したビール会社を、明治40年 (1907) に三菱財閥と明治屋の出資で「麒麟麦酒」としました。

続いて大日本ビールですが、明治38年 (1905) に三井物産の主導で大阪麦酒 (アサヒビールの前身) 札幌麦酒 (サッポロビールの前身) 日本麦酒 (恵比寿ビールを製造) が合併して誕生しました。やはり昔から三井と三菱はライバルだったんですね。1935年にはエビス・アサヒ・サッポロの商標で65%の市場占有率がありましたが、敗戦後の1949年に財閥解体のあおりを受けて朝日麦酒 (現アサヒビール) と日本麦酒 (現サッポロビール) に分かれました。

2) 本日のゲスト 1名
米山奨学生 タム, マオ シェン さん
(カウンセラー 服部 正君)

3) ビジター紹介 (宮崎 信一君) 1名
おきね さわたか お
・荻根澤隆雄さん (三条RC)
(2018-19年度 地区研修・協議会実行委員長)



4) 今週の花 「ガーベラ」 花言葉: 「希望」「常に前進」

5) 伝達
・米山奨学生 タム, マオ シェンさんへ奨学金贈呈



6) 委員会報告
・ロータリー財団委員会 (服部 正委員長)

濱田 守君		ポリオ \$ 20	(\$ 952)
服部 正君		ポリオ \$ 20	(\$ 2,512)
兵藤 邦広君	\$ 100		(\$ 2,140)
五十嵐大吾君	\$ 20	ポリオ \$ 10	(\$ 4,060)
富山 修一君		ポリオ \$ 20	(\$ 2,180)
山田 雄治君	\$ 50	ポリオ \$ 20	(\$ 2,310)

・米山奨学委員会 (五十嵐 大吾 委員長)

藤田 英樹君	¥5,000	(¥5,000)
五十嵐大吾君	¥2,000	(¥173,000)
西脇 郁夫君	¥10,000	(¥225,000)
小田 敏三君	¥10,000	(¥30,000)
島村 健治君	¥3,000	(¥9,000)
山岸 誠一君	¥10,000	(¥852,000)



7) ニコニコボックス紹介 (藤田 普君) 4件

荻根澤隆雄君 (三条RC)
…初めて寄せて頂きます。
先週のPETSでは何かと
お世話になりました。本
日はよろしくお願ひ致し
ます。



山岸誠一君…次男が大学
を卒業しました。これで子供4人全員が社会人となり、
親の役目も終わりホッとしています。
古塩 充君…木村一貫様、お名前一発では読めませんね。
今日の卓話宜しくお願ひします。
津吉孝司君…皆様にはたいへんご無沙汰いたしておりま
す。活動を少しずつ再開させて頂きます。今後とも皆様
より叱咤激励をいただければ幸いです。

8) 報告

- ・山本剛史社会奉仕委員会委員長より：5/26(土)9：30
～2時間程度、西区青山海岸に約1,000鉢の植樹を行
います。できるだけ多くの方の参加をお願いします。
- ・若山良夫次期幹事より：5/19の地区研修協議会の出欠
について未回答の方は早めに回答をお願いします。



9) 幹事報告 (田村 淑文 幹事)

- ・新入会員予定者：村上昭
二さん。これにより106
名となります。



会員数	算定対象者	出席者	出席率
105	102	87	85.29

《卓話》

「ニュースで読み直す近代新潟美術史」

新潟市歴史博物館みなとびあ 学芸員・展示担当課長 木村

生まれは山形県の鶴岡です。筑波大学で油絵をやって山
形の中学校で美術の教師を3年、酒田の本間美術館で学芸
員を2年やった後、ポーランドに2年間海外協力隊として
学芸員をしました。30才で帰ってたまたま新潟市の職員
採用で美術館に勤めたのが、新潟での生活の始まりです。
美術館に10年勤め、今の「みなとびあ」で10年目になり
ます。

「みなとびあ」では「新潟の美術」というテーマで喋っ
ています。ただし、画家や作品の背景の話ではなく、「皆
さんにとっての美術とは？」という問いかけをしています。

明治5年、ウィーンの万国博覧会に日本国が出品するた
めの準備をしていた頃の話です。出品するのは、一人前の
国の証で、日本をアピールする絶好の機会でした。ところが
日本には美術という特別なジャンルが無く、展覧会とい
うものも明治以降にできた習慣です。江戸時代に「書画
会」というものがありましたが、お寺に画家を招いて、一
筆描いて貰うというものです。料金が高価なので一般の人
が行けるような状態では無かったようです。

そして、明治33年に新潟に展覧会というものが出て
きました。これは入場料が安く気軽に足を運べました。展
覧会が普及していった一番の要因です。そして輸入された
外国の「美術」という文化が日本で発展していったのは経
営者の方々のおかげです。画家を育ててくれた人や、紹介
してくれた人、仕事をくれた人など、そういった人たちが

紹介者：古塩 充君



ひとやす
一貫 氏

美術を支えてきました。

最後に、「趣味は何ですか」と聞かれた時、「油
絵が趣味です」と言うのは、かっこいいかもしれませんね。
「絵を描くことが趣味だ」と人々が言い始めたのは大正時
代からです。明治時代には趣味として美術を捉えることは
ありませんでした。庶民の生活の中で絵を描こうにも、白
い紙すら無かったからです。働いてお金を稼ぐことが、生
きていくための必要条件であって、勉強や文化的な生活は
いらぬというのが普通だったんですね。それが変わって
いったのが大正時代になってからでした。美術が好きな方
は、大勢いらっしゃると思うのですが、そもそも美術とい
う言葉がいつから出てきたのか、好き嫌いを語るように
なるまで、どのような歴史的背景があったのかということ
を、少し立ち止まって見ていただけたら嬉しいかなと思
います。ありがとうございました。

